



# 広報 ひがし しらかわ

1992  
平成4年  
5  
No.373

- 発行/東白川村
  - 編集/企画財政課
- 岐阜県加茂郡東白川村神土  
〒609-13 ☎05747(8)3111
- 印刷/下呂印刷株式会社

## 人口の動き

—4月末住民登録人口から—

世帯数	913世帯
人口	3,460人
転入	25人
転出	16人
出生	2人
死亡	0人

先月と比較して11人増  
 昨年同月と比較して  
 21人減

## 90人が参加、水源の森記念植樹

私たちの村にはいくつかの「水源」があります。その中で最も奥地、大明神地区の越原国有林に「水源の森」がつくられました。

ここは、今年から着工される村の水道の水源であり、また大明神川そして白川へと続く美しい水の源流でもあります。

4月25日。快晴。総勢90人。植えた苗木は1万本。ここから<sup>あした</sup>明白の水が生まれます。

(関連記事6ページに掲載)



# せせらぎ荘見聞録



せせらぎ荘到着、利用者を職員が迎えます。

三月九日から本格的な利用が開始された高齢者生活福祉センター「せせらぎ荘」は利用開始後、約一ヶ月を経過し、百九十六人のお年寄りが利用されました。

「せせらぎ荘のサービスっていったいどんなもの？」という疑問をお持ちの皆さんのために広報モニター五人の方に、肌で感じたせせらぎ荘をレポートしてもらいました。

## 送迎は時速40キロの

### 安全運転

今回参加して下さったモニターの方は、河田重喜さん(西洞)、神戸啓子さん(平)、安江登美子さん(陰地)、桂川一喜さん(陰地)、小池万智子さん(大沢)の五人。この内、せせらぎ荘に入るのが初めてだったのは、安江さんと桂川さんの二人でした。

せせらぎ荘のデイサービスはその日の利用者のお迎えから始



健康チェックを受ける利用者の皆さん

まります。迎える車はおおむね九時にせせらぎ荘を出発します。さっそくモニターの皆さんを乗せた取材班の車は、せせらぎ荘の車を追って出発しました。

この日の利用者  
は、神戸平の皆さんでした。

この日は、寝たきり、車イスといった重度のお年寄りはありませんでしたが、全員の家庭まで迎えにあがり、常時二人の職員が車に乗り、特に足の悪い方などの場合は、両

側から支えるように乗せます。モニターの皆さんの一番の驚きは、せせらぎ荘の車の速度でした。時速40キロ程度のスピードで走る車は、小さな石ころに乗り上げた時のちよつとした振動さえもさせないように細心の注意をはらった運転でした。

**楽しみは、お風呂、食事そして対話**

この日の利用者は十二名。到着するとまず、お茶などを飲みリラックスした後、体温測定、血圧測定といった簡単な健康チェックを行います。ここでの日お風呂を利用できるかどうか判断されます。以前、家で



昂ぐん(小池さん長男)もテレビ子レポーター



利用者、職員と食事をともに

出た時は、何ともなかったのに体温が少し高いからと病院で検査を受けた結果「即入院」ということもあったそうです。あるモニターの方は「病院がすぐ隣にあることは、安心できる」と感想を話して下さいました。

今回のレポートでは、「利用者と一緒にお風呂へ」というわけには、いきませんでした。やはりお風呂は、利用者にとって楽しみの一つようです。

ここでは、寝たきりの人で特殊浴室を使用する人ももちろんですが、一般浴室利用者へも職員が、背中を流すといったようなサービスも行なっています。

モニターの皆さんが、お風呂からあがったお年寄りの皆さん

に、せせらぎ荘についての感想を尋ねてみたところ、その解答はいろいろありましたが、中でも多かった答えは、「ここに来て顔をあわせて話ができることがうれしい」とか「気分が明るくなる」といったものが多かったようです。この日の利用者は、独り暮らしの人もみえましたが、そうでない人でも昼間はほとんどが一人家にいる時は、外にも出ないという人が多く、ここへ来ることによって話し相手ができることがお年寄りにとっては、大きな楽しみなのです。

楽しみといえは食事です。「確かに栄養バランスを考えると大切ですが、ここでの食事はとにかくおいしいものを利用者と一緒に食べるのが一番の目的なんです」との桂川真弘所長の言葉どおり、この日のメニューは、ちらしずしにお吸い物、和え物に果物。また、ここでは日替りで献立てを替えていることも特徴の一つといえるでしょう。

この日は、せせらぎ荘体験と



特殊浴室の説明を聞くモニターの皆さん

いうことで特別にモニターの皆さんも利用者、職員に交じっての昼食となりました。

「こういう施設の食事だから、もっと味気のないものかと思像してましたが、一般家庭と同じようなメニューに味付けで、こういった点からも「家族的」といった面を大切にしてみえることが理解できました」とモニターの感想のように、昼食を残される人が、ほとんどなく、あるお年寄などは、「ここへ来ると食が進みます」と話していました。

栄養のバランスを考えたらうえて、おいしく食事をいただき、また利用者も職員も一緒になって話をしながら食べることで、困らなといった面に本当に気を配っていることが伝わってきました。

## 本当に大変なお仕事

### お仕事

今回のモニターの皆さんのレ

ポートは昼食まででしたが、三時になるとおやつとの時間で、その際には、手作りのお菓子などを頬張りながら、全員で童謡や懐メロなどを合唱してお別れとなるそうです。

昼食までの時間ではありましたが、朝から実際にせせらぎ荘の視察見学を行ったモニターの皆さんに感想を伺ってみたところ、最も多かった答えは、「本当に大変なお



仕事である」という点でした。所長さんに伺ってみたところ職員の中に仕事疲れから病院で点滴を打ちながらも仕事を休まず続けている方もあったとのこと。肉体的にも精神的にもかなり大変な仕事であるにもかかわらず、毎日愛情を持って、本当に一生懸命に働いている姿が、強烈な印象としてモニターの皆さんの目に焼きついたようでした。

### 明るいイメージが印象的

せせらぎ荘に入ると、とても明るいイメージを受けた。職員のピンク色のユニホーム、赤色のジュエタンなどの色のせいだろうか。開設してまだ日も浅いのに、職員の方々は一生懸命

モニター  
小池万智さん

利用者に接していらっしやう。私が見学した日は、自分の事は自分でできる人達ばかりで、ここへくるとみんなと話してできるうれしい。と話してくれた。同じ年代の人達と話し合えることは大切なことだと思ふ。家の中にとじこもりつきりで話し相手のない人、身の回りの事が自分でできない人達があつたとこの施設を利用できればと心から思ふ。

# 介護者支援の施設をめざして

一ヶ月間で

196人が利用

モニターの皆さんのレポートからもせせらぎ荘の職員が、いかに大変な仕事をしているのが、少しは、おわかりいただけたかと思いますが、視察に行ってきた日は、利用者に例えば、寝たきりの人とか、車イスの人、あ

るいは、痴呆の症状のある人などがなく、職員も「比較的余裕をもってサービスができます」と語っていましたが、これが、寝たきりといったような症状の方が一人でもあると現状では、その人にお風呂や食事などは最低三人くらいは付き添わなければなりません。

職員の仕事は、三時に利用者それぞれを家庭まで送り届けておしまい、というわけではもちろんありません。

利用者と話をしながらつめ切りサービス



利用者に対して、利用に來られる日までに、はがきや有線と最低三回ぐらひは連絡をとらねばなりません。利用者がお年寄りなので、その日の朝になって「調子が悪いから」とお断わりになるケースもしばしばあるとか。体の具合などを踏まえたうえで、連絡を密にしておかなければならないのです。

下の表をご覧ください。

これは、四月二十四日まで、せせらぎ荘のデイ・サービスに利用し、申請を出して登録してある人の数と、その間に実際に利用された人の数の対比をしたものです。

三百十七人の登録があり、利用された人がその内の約六十一・八%の百九十六人。単純に数字だけを追っていけば、約四割の人が利用していないことになりま

す。こうした点について所長さんには話を伺ってみたいところ、その一つには前述のように、利用日の前日やその日になって体調が悪くなるといったようなケースがあります。また、せせらぎ荘のデイ・サービス部門の利用者登録を募集した際、対象となつたのが、六十五歳以上の方で虚弱な方、といったことから、「とりあえず登録をして…」とい



「お年寄りの好みはさまざま、特に乳製品などはほとんどありません。最初の頃は、利用者の方の顔と名前が一致しなくて覚えるん」。

う人が多いのもその理由の一つのようです。デイ・サービスは、土・日曜日、祝祭日が休みということもあり、三月九日の開始から四月二十四日までに利用日は三十二日間。利用者数は前述のとおり百九十六人ですが、数回利用した人を含めたべ人数は三百四十八人となり、一日平均約十一人の人が利用されました。「これからはもっとたくさんの方が利用できるようにしていきたい」と所長さんは語ってくれましたが、こうした面からもこの一ヶ

## 職員に聞く ①

方が好まれないので、少しでも食べていただこうとお菓子を作りおやつに出したりしています。利用して下さる皆さんが、作った食事を残さず食べられて、「おいしかったよ」といって下さる時の笑顔を見ることが一番嬉しいです」。

（今井桂子さん）  
（安江昌子さん）

### せせらぎ荘利用者調べ

地区	利用申請者数 (人)	実利用者数 (人)	利用者区分 (人)	
			日常生活で介護を要する人	日常生活で介護を要しない人
神土	169	111	30	81
越原	116	64	18	46
五加	32	21	13	8
計	317	196	61	135

(平成4年4月24日迄、利用日32日間)

月間は、いわば試験的期間でありました。

## 介護者の方に

### 休む時間を

せせらぎ荘の大きな目的の一つに「介護者に対する支援」が含まれています。せせらぎ荘のように横になったままの状態、入浴が可能な設備を持った施設であっても寝たきりの方に入浴していただくためには、職員の言葉にもあったように最低三人くらいが必要ということでした。

## 職員に聞く ②

「家には、年寄りがないので、以前から自分の持つ資格（看護婦）を生かして何かお年寄りの役に立てればと考えてました。主に利用者の方の



入浴前の健康チェックを行なっています。入浴ができるか否かの判断を下すときが、一番心配ですね」（安江恒子さん）。



「やっぱり足のお悪い方などは、一番気にかかります。この施設でお手伝いができ、人生の先輩たちのお話を聞けることは、自分にとっても毎日勉強になることばかりです」（桂川理子さん）。

ましてやこれが一般の家庭ならどうでしょう。例えば、寝たきりのお年寄りを一人抱えた場合、その家庭でのご苦労は、並大抵のことではないでしょう。

全人口の約二十四%が六十五歳以上の人が占める高齢化社会を本格的に迎えた私たちの数が徐々に増えていることもまた、事実です。

前ページの表をご覧ください。先月の場合介護が必要な方の利用は、百九十六人中、六十一人でした。デイ・サービスに現在登録されている方三百七十七人のうち、介護を必要とする方の人数は七十九名です。「今

後、この一ヶ月の試験期間の経験を生かして、利用日などを調整し、また、利用者の方、その家庭の方にも理解と協力をいただき、介護を要する方には月に二、三回利用していただくような考え方を、そうしてお年寄りのある家庭の方に休んでいただく

## 職員に聞く ③

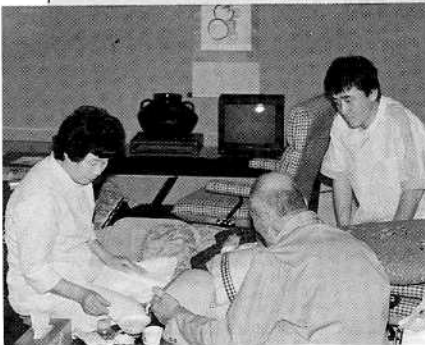
「言葉に出すことができなくて、その箇所をさすつてあげれば直る体の痛みとさすっただけでは直すことのできない心の痛みがあることを実感しました。利用者の方と毎日接している」と態度で教えられることも多く毎日勉強です」（高木三年さん）。

「一番気を遣うのは車の運転ですね。最初のうちは道がわからなことも多かったし、それでも迎えるのを外に出して待つてみるお年寄りの姿を見ると元気がわいてきます」（安江茂夫さん）。

## 職員に聞く ④

「最初に来られた時より、二回めに来られた時のほうが心を開いて下さり、体力的にも少しずつ元気になるお年寄りの姿を見ると嬉しくなります。以前から、何らかの形で社会のためにお役に立てるような仕事ができればと考えていましたので、ここで働けることに本当に感謝しています」（今井米子さん）。

「言葉に出すことができなくて、その箇所をさすつてあげれば直る体の痛みとさすっただけでは直すことのできない心の痛みがあることを実感しました。利用者の方と毎日接している」と態度で教えられることも多く毎日勉強です」（高木三年さん）。



この4月には村内各地で前年度までに完成した建物、道路、橋などの竣工、開通、渡り初めなどが行われました。

“順風満帆”平成4年度の村づくりの舟出を追ってみました。



味の館テープカット

# 順風満帆の村づくり

## 味の館竣工式

四月十七日、竣工式が行われた東白川村食品流通高度化施設「味の館」は、個性豊かで、新鮮であり、もちろんおいしいもの。なおかつ衛生的で安全なものを目指して求めている消費者のニーズに答えるために誕生した施設です。

村ではこれまで「健康野菜の郷づくり」をキャッチフレーズに夏秋トマト、夏秋なすをはじめ、千室菜のような新しい技術による野菜にいたるまで農作物づくりを応援してきました。そうした野菜を材料とし加工食品を製造する場が味の館なのです。この施設では、トマトジュースやケチャップ、漬物などが製造できますが、トマトを例にと



チョッパーを試す来賓のみなさん

ってどんな過程を経て加工食品になるのかを簡単にご説明しましょう。まず、トマトをチョッパーに

よって砕き、それを煮て裏ごししたものがトマトピューレです。この状態までは、ジュースもジャムもケチャップも同じです。これを加熱殺菌してビン詰めにしたものがジュースに、煮つめてビン詰めしたものがジャムに、加熱濃縮して、裏ごしをし再加熱したうえでビン詰めしたもののがケチャップになります。もちろんこの施設には、ビン詰機や打栓機はもとより、真空パ

ック機等もあります。また、鮮度保持のための水温冷蔵庫や、漬物などの大量生産にも対応する大型の漬物おけもあります。味の館を実際にご覧にな

“快晴”というのはまさにこういう日を用いよう。今年度着工となる簡易水道事業の前途を祝福するかのよう。さわやかな晴天に恵まれた四月二十五日、水源の森の記念植樹が行われました。

この水源の森は、大明神川水源地にあたる国有林五・四七を村が名古屋屋敷支局から借り受け分収造林契約をしたものです。

この日の記念植樹に参加した人は、老人クラブの方二十名を含む総勢九十名。地下足袋にとぐわ、弁当持参のいで立ち。まさに山男そのもの。植樹の作業は、前の日が雨であったことも幸い

分の声援を受けながらの作業となりました。

「これから先も良い機会があれば、老人クラブの皆さんと一緒にここに手入れに来たいです」と植樹後語って下さったのは、この日の参加者中、最高齢だった八十五歳の桂川政一さん(日向)。お年寄のみなさんが、手際良く一本一本でいねいに植えられる姿が印象的でした。

「一人一本、一日で一万本」という目標でしたが、皆さんの頑張りの甲斐あって予定より三十分も早く終了。新緑の中、心地よい汗をかいた一日でした。

## 4. 25水源の森記念植樹

# 奮闘記!

してか、穴を掘るには最適なコンディションでしたが、何しろ険しい急斜面、苗木の運搬係は一苦労。「明日、足がまるかってまうぞ(ひきつってしまう)」などとひやかし半



村老連のみなさん元気に参加

るとびっくりされるかもしれませんが、この建物の正面外壁には、鏡のようなステンレスが張ってあります。もちろんこれは身だしなみを点検するためのものではありません。防音、防塵対策や断熱効果を考えたうえで景観を損わないように工夫を凝らした気配り設計なのです。

運営にあたっては、(株)ふるさと企画が行ないます。使用についての諸規程はありますが、誰でも可能で、ふるさと企画に申請されると役場農務課等で指導を行ないます。また、ふるさと企画の職員が食品衛生責任者となっているので販売も法的に心配はいりませんが、味の館審査会の認可が必要となります。こ

## 親田地区、各種事業の完成祝う

の施設を積極的にご利用いただき、ここから新しい村の特産品が生まれることが期待されます。

四月十九日、親田地区では、昭和六十一年度から平成三年度にかけて行われた五つの事業、十四路線の工事、二橋の架橋工事などの一連の完成を祝う記念祝賀会が、伝承の館をメイン会場として行われました。



土地改良碑除幕

合同渡橋式。神事後の渡り初めでは、最年少一歳の安江優貴くんをはじめ地元親田の元気なちびっこたち十数人がお父さんやお母さんと一緒に、立派にその役目を果たしました。

渡橋式終了後、会場を農村公園に移して土地改良碑の除幕式、農村公園完成式、地域づくり総合事業竣工記念式典が行われました。

これら一連の竣工式典は「苦節十年にして上、下親田をつなぐ狭い道が、整備統合され、舗装された道路が家々をつなぎ、集落は一新した」と土地改良碑に記すように新しい時代を迎えた親田地区の節目となる行事になりました。

## 小三地橋(栃)も渡り初め

四月二十九日、栃山では小三地橋の渡橋式が行われました。小三地橋は、県営畑地帯総合土地改良事業の一環として昨年十月から今年三月にかけて工事が進められていたもので、橋長が二十八m、幅員四mの合成板桁橋です。

この日の式典には地元栃山の



三代夫婦加藤さん御一家

皆さんを中心に約四十人が参集。加藤裕暉さんご家族が三代夫婦として渡り初めをされました。

が、村関係者、地元の人たちなど約五十人が参集。式典の最初は、本谷橋にて本谷親田(下開橋)新親田(上開橋)の



ちびっこたちの元気な渡り初め

# ゴールデン ウィーク G・W村

「今年も5月5日にツチノコ探しをやられるんですか」四月になるとこういう問い合わせの電話が役場へ一日何回かかかってきます。

東白川村を一躍全国区へと導いたツチノコ。ツチノコ捕獲イベントも今年で四年目を迎え、その首(?)にかかった賞金も百三万円までアップしました。

五月五日、探そう会会長大坪信也さんの言葉を借りれば「ツチノコがもたらした晴天」といっほど、絶好の天気にも恵まれ、今年からメイン会場となった親田農村公園には、遠くは東京からという方も含め約五百人の参加者が集まりました。

今回は「生け捕り」に重きを置いたイベントとなり搜索コースも三ヶ所に広げての大搜索隊を結成。コースに入った参加者たち、子供の手を引き、真剣なま

## 5.5つちの子搜索大作戦

なごしでツチノコを捜すおとうさんの姿、袋いっぱい詰めた山菜に喜ぶおあささんの姿、残念なことに肝心のツチノコ君、内気で人見知り(?)なところは、地元の方に似たためか、大搜索隊の前に姿を現すことなく今年もやっぱり幻で終わりました。

また、この日会場には、(株)ふるさと企画の店舗をはじめ村内外からの有志の方々による九店が軒を並べ、こちらもツチノコ人気に負けず劣らず大好評。他にも宝さがしゲームなど地元親田の皆さんの熱意と協力により今年のツチノコイベントも大盛会となりました。



ツチノコ探しにいざ出陣

# 村人会旗上げ!



祝 東白川中京村人会設立総会

去る四月十八日、名古屋市の愛知会館において東白川中京村人会の設立総会が盛大に行われました。昨年春、村内全戸を対象に調査を行った「愛知県在住、村出身者調べ」から約一年、会員数二〇七名を数える素晴らしい会の発足となりました。総会には、村からも村長、議長をはじめ、検茶太鼓のメンバーも含め三十一名がお祝いに駆け付けました。

## 今までなかったことが不思議……

この日、設立総会の会場となったのは、名古屋市東区にある「愛知会館」。集まった会員はその家族も含め百二十名、村からの出席者三十一名も含めると、総勢百五十一名という、東白川中京村人会の旗上げにふさわしく盛大な総会となりました。

川村出身者は、元をたどればみんな親戚なんです」との顧問の名古屋女子大学理事長越原一郎さんの乾杯の音頭で懇親会へと進みました。

あちこちのテーブルから「何で今までこんな会がなかったのか……」「こういう日が来ることをずっと待っていた」といった声も聞かれ、中には中学校以来……なんていう方もあったり、懐かしい顔、懐かしいことばに包まれた場内は、あたかも「年齢を超えた同窓会」といった雰囲気漂っていました。

また、お祝いに駆け付けた検茶太鼓の鮮やかなバチさばきも懇親会に花を添え、二時間という時間では足りないくらいの大盛会となりました。

## 会員は予想を

はるかに上回る

今井利也さん（大山市・宮代出身）の会長をはじめ二十七名の役員

の就任、会則等の承認が行われ、「東白

「東京にある『東白川クラブ』

# おしらせ

## 学卒求人説明会

### が開かれます

美濃加茂公共職業安定所では、平成五年三月新規学校卒業生にかかる求人説明会を次のとおり開催します。採用計画のある企業の皆様はぜひご出席下さい。

●とき／平成四年六月四日(休)午後一時三十分から二時三十分迄

●ところ／美濃加茂市文化会館  
※詳しくは、職業安定所学卒係(☎〇五七四(二五)二二七八)までお尋ね下さい。

## 六月は

### 土砂災害防止月間

梅雨―梅の実はこのうつと降りる雨。昔の人はこのうつとおしい時期を実に風流にいったものです。しかし、この時期の長雨

や集中豪雨は、過去に幾度も土石流、がけ崩れなどといった痛ましい土砂災害を起こしました。六月は、土砂災害防止月間で



す。自分だけは大丈夫などと思わずに、いま一度、住んでいる地域に危険箇所はないか確かめてみましょう。また、万一の場合にどこへ避難したらよいか等この機会に家族で話しあってみてはいかがですか。

## 犬の登録と狂犬病予防

### 注射を実施します。

現在、村に何頭ぐらい犬が飼われているかご存知ですか?村に登録されている犬が約四百頭、全世帯の約44%、九人に一頭は犬を飼っているわけです。

年一回の犬の登録と年二回の予防注射は義務づけられています。犬を飼っておられるみなさんは必ず登録と注射を受けてください。

●とき／五月二六日・二七日

●ところ／村内二十会場

●費用／登録一頭二千円・注射一回二千五百八十円

※詳しくは、民生課保健係(☎



# 会員数207名、中京

が発足して三十五年以上を経て、いるのに目と鼻の先にある中京圏に村人会がないのはおかしい。これがこの会の設立への出発点となりました。

昨年春に村内全戸に調査した出身者調べで解答があったのは約三百八十人。その後の口伝え等で増え、最終的に会員申込書を送った数は約四百三十通。

昨年数回にわたり行われた世話人会では、「百人ぐらゐの申込みがあれば……」こんな声が聞かれていました。ところがフタを開けてみると、そんな心配もどこへやら、あつという間に百人を突破し、今回の最終締め切りとなった三月二十日までに集ま

山あいに湧き出た清水が、白川の瀬となり、飛驒川を走り、木曾川を満たし、濃尾の野を潤し、伊勢の大海に注ぐ。こんなところにも、ふる里との縁や繋がりやを、中京圏に住む一人として強く感じます。村の方々のご理解と、会員の皆様のご協力により、この度、中京村人会が呱呱の声をあげることができました。

「人生、L・L時代」とか、「L・W時代」とか言われる現今、単に寿命のロングのみでなく、大きくて幅広い人生（ラージでワイドな人生）を送るためにも、村との密度の濃い交流と、会員同士の幅広いふれあいを軸に、活動の輪を広げて行きたい念じています。

(文) 会長  
今井利也さん  
(犬山市)



会長 今井利也さん

・今井君子(西洞出身) △監査―村雲繁(上親田出身)・安江春夫(黒瀬出身)。



デンニブルのあちこちに懐しい顔が

つた人数が二〇七名。役員の方に伺って見たところ、その後も問い合わせが殺到し、「嬉しい悲鳴」だとか。「同じ郷土をふるさとに持つ者どおしが、親睦と情報交換しながら、こころの交流を深めたい！」村人会設立趣旨書は、こう謳っています。まさにこの日、都市と村とを結ぶ一本の太いパイプができあがりました。

今後村人会では、年一回の会報の発行や、里帰りツアーなどの活動が行われていきます。主な役員の名前は次のとおりです。(敬称略)

△会長―今井利也(宮代出身) △副会長―木村方根(上親田出身)・田口功(大明神出身)・大坪のり(上親田出身) △会計―今井美千雄(大口出身)

## 図書コーナー

### ミカドの淑女



林 真理子著  
下田歌子は歴史上の人物として有名だが、読み進むうちに彼女が並みの才女ではないことがわかった。明治の時代のなかでの彼女は、あらゆる人の目に新鮮に映ったことだろう。  
推薦人(56歳 女)

### 「結婚」の憂鬱

この短編集に登場する男は生活に疲れて、とても幸せそうに見えない。人は何のために結婚するのか、男と女が結婚に求めているものは何なのか、考えさせられてしまいました。  
推薦人(27歳 女)

諸井 薫著



(二二五六)までお尋ねください。

### 高齢者及び障害者住宅資金貸付について

高齢者及び障害者と同居している方で、高齢者、障害者のための専用居室(風呂・便所等含む)増改築にかかる整備資金を貸付ける制度があります。

▼貸付限度額 二百万円 ▼利率 年三% ▼償還期限 十年以内 ▼詳細は民生課住民係(併二一六二)までお尋ね下さい。

### 今から写真を撮ってご応募を

花の都ぎふ・花のひがしら

かわ推進協議会では、花で飾った村づくりを進めながら豊かな心とるおいに満ちた生活環境を育てようと、事業の一環としてこの秋の産業祭で「家庭花壇コンクール」を実施します。

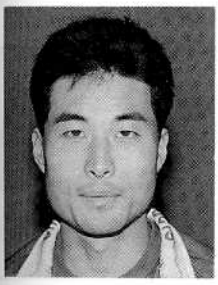
花壇は家庭によって大きさ形もさまざまですが、限られた場所を有効に生かしたいいろいろな形の花壇を村内のあちこちで見かけたこの春、そんなほのぼのとした温かさいっぱいの花壇を写真に撮って応募してください。

応募方法等詳しい内容は、決定しだいお知らせしますが、春夏・秋と季節感にあふれた作品をお待ちしています。

## 郷 帰

### 三年振りの里帰り お土産は……新たな決意

先月号で青年海外協力隊員としてタイへ渡った、大明神の田口悦代さんを紹介しましたが、田口さんが成田を飛び立った約三週間前の三月十四日、県初の国際事業団海外開発青年として南米パラグアイに渡っていた村雲健志さんが三年振りに帰国されました。



村雲健志さん

村雲さんは、下親田の村雲次郎さんの次男で今年二十五歳。平成元年、全国二百人の応募者の中、六・七倍という狭き門をくぐり、南米に渡っていたもの。海外開発青年というのは、主に日系人を対象に技術指導を行うもので、村雲さんは、農業技師として活躍してみえました。パラグアイでの三年間、最初は、この国の第三位の農業生産高を誇る大豆や小麦の栽培指導



養豚のようす

を中心に行っていたそうですが、大豆の価格暴落などがあり、途中から肉豚に転向。豚舎を作ったり、ハム会社との契約を結んだりと養豚作戦は一応の成功を収めたそうです。「現地の人たちは陽気だけれど、あまり働こうとしない。彼らに養豚に興味を持たせることは苦労しました」と感想を語ってくれました。畜産振興は、出発当初からの目的だったこともあり、今回の成功は、満足のいく結果だったとのことですが、今後さらに養豚ソシオ(仲間)を増やすため、村雲さんは一年間の延長契約で四月十四日、再びパラグアイへと渡りました。

## 叙 勲

### 林業一筋40年! 村雲さんに黄綬褒章

平成四年春の叙勲で森林組合長の村雲規造さん(上親田)が黄綬褒章を受けられました。村雲さんは、昭和五十八年か



ら森林組合長として、また昭和六十三年からは、「東濃ひのき白川プレカット協同組合」の理事長としてもご活躍中です。「こんな賞がいただける立場でないのに……この受賞が最近低迷している林業界の活性化につながれば……」と喜びの胸の内を語って下さいました。伝達式は五月二十日、東京で行われます。

### 交代 15年間お疲れさまでした 交通安全協会 古田さん勇退

昭和五十二年から加茂地区交通安全協会東白川支部長としてご尽力下さった久須見の古田敬司さんが、三月を以て職を退かれました。「在任中村内で二件の交通死亡事故があったことは

本当に残念でした。今後は、特に若い世代に交通安全の意識を強く持って欲しい」と語って下さいました。なお、四月からは古田さんに代わり平の有賀政晴さんが支部長に就任されました。



前支部長 古田敬司さん



新支部長 有賀政春さん



■戸籍の窓 4月―敬称略  
誕生おめでとう  
ございます



いつまでも  
おしあわせに

(陰地) 村雲 成男 由菜  
由紀子 由菜  
(陰地) 安江 武司 あづみ  
みどり (長女)

(土本) 元秀 (土岐市)  
安江 由紀 (平)  
小池謙多郎 (平)

熊澤 康予 (黒瀬)

■善意の寄付―敬称略  
『社会福祉協議会へ』

現金二万円―松岡良佳(日向)  
現金千百三十五円―平十一班  
婦人会

〔東白川小学校へ〕  
本四冊―安江建夫(平)

〔神土保育園へ〕  
竹ぼうき十本―今井倉太(平)  
絵本七冊―安江杏子(日向)

〔越原保育園へ〕

絵本五冊―苅田太久一(陰地)  
絵本五冊―高木英彰(黒瀬)  
屋外壁掛時計―安江亮次(日向)  
▼学習机―安江春兼(陰)

## 奮闘

### 消防パワー激突! 日頃の成果、遺憾なく発揮

「頑張れよ、走れ走れ!」と

力強い声援に沸いた第二十八回東白川村消防操法大会が五月十日、東白川小学校々庭で行われました。操法要領の大幅な変更等、注目を浴びた今大会、忙しいうちを十日間にわたる訓練の成果を見事に披露しました。成績は以下のとおりです。(敬称略)

#### ◇小型動力ポンプの部

優勝—第一分団第六ポンプ

指揮者 安江友則(上親田)

一番員 安江昭久(〃)

二番員 村雲辰善(下親田)

三番員 安江正明(〃)

準優勝—第一分団第三ポンプ

三位—第一分団第四ポンプ

四位—第一分団第五ポンプ

五位—第三分団第十三ポンプ

#### ◇ポンプ自動車の部

優勝—第三分団ポンプ自動車

指揮者 安江透守(日向)

一番員 安江真博(陰地)

二番員 安江智樹(陰地)

三番員 安江雅次(柏本)

四番員 桂川一喜(陰地)

#### ◇個人表彰(優秀賞)

#### ▼小型動力ポンプの部

指揮者 安江友則(上親田)

一番員 古田正貴(柏本)

同 安江昭久(上親田)

二番員 村雲正則(神付)

同 村雲辰善(下親田)

三番員 安江正明(〃)

#### ▼ポンプ自動車の部

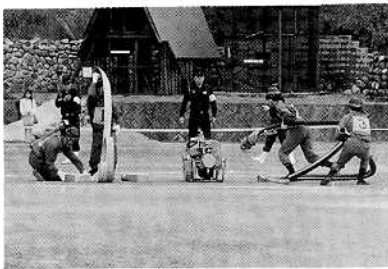
指揮者 田口幸生(平)

一番員 安江真博(陰地)

二番員 村雲和裕(平)

三番員 安江雅次(柏本)

四番員 桂川一喜(陰地)



「操作はじめ」「よし!」

## 国際化

### はじめは身振り手振りから 明るい笑顔でお出迎え



外国人研修生の宿泊施設

本格的な国際化時代を迎え日常を各国の人々と共に暮らすこともごく普通のこととなりました。村でも、五月中旬から外国人研修生が岐阜部品(株)へ来られます。研修生はフィリピンの女性約二十人で、工場敷地内の住宅で寝起きし六ヶ月間の滞在予定です。村内各所で、あたたかい方言と英語とそして身振り手振りでの交流が生まれそうです。

## 浪漫

### 夢は大きく膨らんで 立派な施設になりました



この日は家族で最終準備

その名も「どりーむ」。この五月二日、曲坂に貸別荘がオープンしました。「自分たちだけで利用する小屋を建てるのが出発点でした」と語ってくれたのは、どりーむのオーナーの一人安江章吉さん(日向)。夢が育って貸別荘にまで発展したのですが、この夢に参画したのは、安江さんをはじめ、村雲規、め村田正敏さん(陰地)。

造さん(上親田)の三人。丸太小屋の宿泊施設のほか、予約↑ベキューハウスも完備。予約状況もかなり好調だそうです。

#### 【五加保育園へ】

わらぞうり三十五足。今井利一(下野) ▼カーネーション

ブローチ 東白川村母子寡婦

福祉会

#### ■工事入札の結果

①は入札期日②は落札金額

および落札業者

▼神矢線道路改良工事

①四月二十七日②六百七十九万八千円、丸登建設(株)

▼神土角領線薄層舗装工事

①四月二十七日②四百四十八万五千円、(有)マルト土木

▼村道小破修繕工事

①四月二十七日②百八十万二千五百円、新田建設

▼村単舗装第一号工事

①四月二十七日②二百二十一万四千五百円、(有)立保土木

訂正とお詫び

四月号五ページの青木高志は孝志、六ページの渡邊裕巡查部長(36)、金尾竹尾は竹雄の誤りでしたので訂正しお詫びします。

満1歳



▲村雲広規くん (知巳さん・ちほみさん長男＝西洞)

このコーナーの子どもたちみな同い年。  
10年後、20年後「広報」もみればホラ！  
1歳のあの子の顔が……

ふれあい広場

新婚さん

■ワン・ショット■



小池謙多郎さん・康子さん

「二人の  
出逢いは、  
まさに、天  
のめぐり会  
わせだった  
んです」と  
語ってくれ  
たのは、四  
月二十五日  
結婚式を挙

げられたばかり新婚ホヤホヤの  
小池謙多郎さん康子さんご夫妻  
(平)。「天のめぐり会わせ」  
の言葉の裏には、二人の運命的  
な出逢いがあるとのこと。二年  
前、謙多郎さんの勤務先である  
商工会に欠員の補充として勤め  
たのが康子さん。しかも僅か二  
ヶ月という短期間。「年の差な  
んて考えず、粘り強くアタック  
しました」というのは、いのし  
し年生まれ、猪突猛進型？  
のご主人謙多郎さんの弁。

結婚を意識しはじめたのは、  
一年前くらいから。と語って  
くれた康子さんに、ご主人に惹か  
れた所を伺ってみると「全てで  
す」とはしっかりしたおノロケ。  
お子さんは、夫婦そろって三  
人がご希望だ  
とか。

端で見てい  
るとほほえま  
しくなるよう  
な素敵なカッ  
プルです。

この写真は引き  
のばしてお二人  
に進呈します。

子育ての生活史 ②

▽めんば△

めんば……すなわち弁当箱の  
こと。これが現代とはポリユー  
ムが違っしろもので、何しろい  
っぱい詰めれば米七合。今流行  
のランチジャーは約〇・七合(二  
百㍉)くらいだからその十倍  
という量でした。

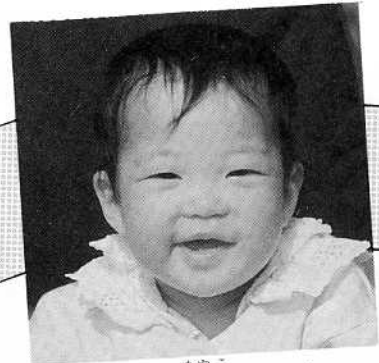
これとは別に小型の菜入れめ  
んばに、漬物・煮物・干魚の焼  
物などを、これもいっぱい詰め  
込んで、先月号で紹介した「せ  
ご」に入れ、背負って山へ行く。  
さて昼めしだ。時間は十一時  
ころ。少し早いようだがそこが  
今と違うところ、三時ころにも  
う一回こびるを食べる。だから  
めんばは二食分。身のほうに詰  
めたごはんが昼めし用、蓋のほ  
うがこびる用ということになっ  
てはいるが、腹が減っていると  
つい蓋のほうにも手をつけてし  
まう。

もうここらで……と思っても  
止まらない。腹のほうに承知を  
しない。ついに二食分を一度に

平らげてしまった……などとい  
う話はごく普通の時代でした。  
めんばは戦後もしばらくは使  
われたが次第に姿を消して、弁  
当箱は金属製から合成樹脂へ、  
そして保温型へと変化し、小型  
化した。しかし近年めんばの良  
さが見直され、昔の菜入れめん  
ばほどの大きさのものにめしを  
入れて使っている人もけっこう  
ある。

木の曲輪細工でできためんば  
は金属やプラスチックのように  
めしがべとつかず、実においし  
い。米飯と最も合性の良い弁当  
箱はやっぱりめんばのようです。  
さて、せごの中から取り出し  
た弁当に箸が入っていない！。  
忘れたわけではなく箸は山の  
細い木をなたで削って作れば良  
いのであって、その箸作りもひ  
そかな楽しみ山の山仕事であつた。





▲ 今井 綾子ちゃん (明生さん・初美さん長女=大沢)



前月号で、紹介したブ  
レカット工場の雨どいに  
巣をかけたムササビ。なん  
とその巣から、赤ちゃんが  
落下。職員の方々の手厚い  
看護の甲斐あって、今では小  
さな哺乳ビンで牛乳を飲むまでに  
元気になりました。



### 中京村人会発足にあたり

副会長 木村 方根  
(名古屋市)

新緑の候と相成りました。  
村内の皆様には、益々、御  
健勝のことと存じます。

さて、この度、中京  
村人会副会長に就任  
いたしました上親田  
出身の木村方根で  
ございます。

先頃四月十八日に、  
念願の中京村人会設立総会が  
めでたく開催されました。大  
都市名古屋で村出身者が一同  
に会し、故郷を懐かしむことが

できましたのも、村長さん始め  
役場の方々のお力添えが、あつ  
たればこそと深く感謝いたして  
おります。これからも、どのよ  
うなイベントを組めば会員の方  
々に喜んでいただけるか、村内  
の皆様のお智恵を拝借すること  
と思っておりますが、よろしく御協力  
の程、お願い申し上げます。  
さて、私も田舎を出てから、  
早や三十七年になります。や  
はり思い出されるのは、幼き日  
々、山や川に同級生と遊んだこ  
とばかりでございます。時折、  
つちのこ探しなどで新聞紙上に  
東白川の名を見つけたります



木村方根さん(上親田出身)

と胸熱くしておりますのは私だ  
けでしょうか。  
今後は、村人会の発展が、こ  
の自然の恵みを生かしたままの  
村造りの一助になることを心よ  
り願っております。末筆になり  
ましたが、村内の皆様の御健康  
を深く祈念いたしまして失礼し  
ます。

## 元気です！ 働く お年より ふとん職人

今年七十六歳になる安江登巳  
郎さん(西洞)は、今なおふと  
ん作り職人の現役選手として頑  
張っています。

安江さんが、ふとん作りの修  
業に岐阜へ出たのが、十四歳の  
頃だそうですが、太平洋戦争  
の頃の数年を除くと、ふとんを  
作って五十六年、ふとん一筋の  
大ベテランです。

「初めからふとん屋になろう  
という気はなかったけれど、こ  
の仕事は興味があったし、何か  
の職人にはなりたかった。修業  
時代は、明けても暮れてもふと  
ん作り、特に冬場素足で綿入れ  
をするときの足の冷たさは、よ  
う忘れませんよ」と厳しい修業  
時代を振り返っての話。

昭和二十六年にふとん店を開  
業した安江さんですが、十年ほ  
ど前、事故で首筋を打って、職  
人の命といっても過言ではない  
手の自由が利かなくなるほど大

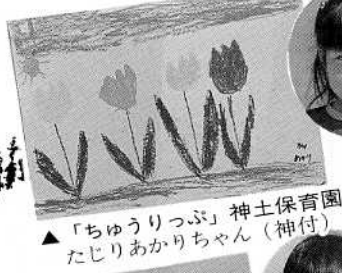
ケガをした時、何度かやめ  
ようと思ったそうです。し  
かし、生来努力家の安江さ  
ん、少しずつりハビリをし  
ていくうちに医者も舌をま  
くほどの回復ぶりだったと  
か。今では、少しの後遺症  
はあるものの、昔のように

またふとん作りができるまでに  
なりました。その大ケガの後、リ  
ハビリの一環にと始められた、  
ゲートボールも今年で六年にな  
るベテランです。「健康というこ  
とにはあまり気を使ったことは  
ないが、ご飯を食べすぎないこ  
とと、楽しみな週二回のゲート  
ボールでの運動が、健康の秘訣  
になっているのかもしれない  
ね」と、安江さんが丹精込めて  
作られるふとんのような暖かい  
笑顔で話して下さいました。

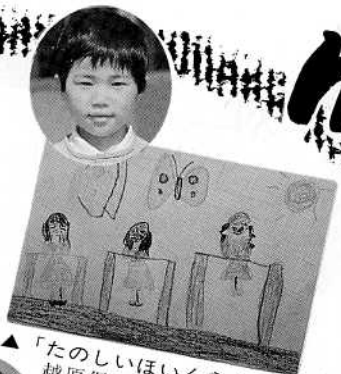


針を持つ手は職人氣質

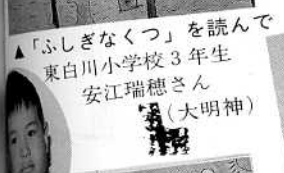
# わたしの作品



▲「ちゅうりっぷ」神土保育園  
たじりあかりちゃん(神付)



▲「たのしいほいくえん」  
越原保育園 やすえかよ  
ちゃん(日向)



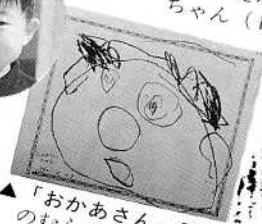
▲「ふしぎなくつ」を読んで  
東白川小学校3年生  
安江瑞穂さん  
(大明神)



▲「ふしぎなくつ」を読んで  
東白川小学校3年生  
今井良光さん(神付)



▲「ちゅうりっぷ」神土保育園  
くまざきたかひとくん(神付)



▲「おかあさん」五加保育園  
のむらふみひろくん(柏本)



▲「たのしいほいくえん」  
越原保育園しまくらみほこちゃん  
(陰地)



▲「おかあさん」五加保育園  
おぼろけふるたとおるくん(久須見)

## ● 短歌

## 広報文芸

- 掛け声と合わす力に材木は凍みより起きる雪解けの山 安江 香
- 春の陽を背な一ぱいに草むしる吾が肌軽く汗ばむまでに 安江 幸
- 新しき教科書を朗読する孫を囲みてその母と祖母われは開く 今井 かな
- 木々の間の山の温泉のぬくもりに身をひたしおり雪の濁河 安江 龍玉
- 今日一日雨こらえてと思ひいる曇り空なる桜仰ぎて 田口 一枝
- 喜びも悲しみも共に沁みつきし家建て替うと我が胸痛む 安江とし江
- 一片の紙切れで征き一片の紙切れと還りし兵らの墓も苦むす 三戸 きり
- 花好きの兄の墓前に二鉢の童供へて去りがたく居り 安江 澄
- 武家屋敷に時移りつつ持人の姿し今もそのまま残る(金沢にて) 安江 節子
- 養生に三年経ぬれば山際の田畑は原野に戻りゆきたり 小池 弘子
- 自動車の音に目覚めし夜の明けを味噌汁の香の臍に沁みく 安江 守平
- 雨降りのおくる日桜散りそめて短かき花のいのちおしめり 安江すみよ
- ほのぼのと朝を目覚めて立つ厨窓に鶯の初音きこゆる 安江とくよ
- 日章旗アルペルビルに輝けり笑顔に幾多の死闘を秘めて 安江 順子
- 世の流れか息子ら町に出て行きて老いし夫婦で釣店守る 早瀬 久子
- 裏山に巣作りをせる鴉あり遠廻りして木立に消ゆる 安江 富枝
- 久々に尋ねし伯母の手料理で話もはずむ春の一日 荏田 清美
- 広き家にも霊守りて義姉一人犬を相手の日々を想ひぬ 伊藤 美枝
- 懐しき方言いしか消えゆくをさびし語りへよんべ仕舞い逝く 伊藤 重雄

あなたの作品をお寄せくださいー初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します●偶数月の二十日までに神土伊藤重雄宛に出して下さい。

## こぼれ話



先日、ある会議での休憩時、加子母村から来られた中年の男性の方が、「東白川村の人は、わしの顔をみんな知っておいでなのか、それともわしの顔が東白川村の人の顔なのかと、車を運転しながら考え込んでしまったくらいやった」とニコニコしながら話しておられた。▼東白川村の道路は、まだ狭いところが多くて、車のすれちがいが大変な時があり苦勞の声もあるが、ますます心のふれあいが希薄になってきている昨今、ちよつと道を空けてやる相手への思いやり、「ありがとう」といって頭を下げる感謝の心、狭い道だからこそできる心のふれあいでもある。▼東白川村の道路事情も近い将来整備され便利となることでしょうか。なんとか車社会の中にあっても、この良さを残せないものだろうか。「心を大事にした時代」だからよけいに憂慮したくなる。